

クロなら結構です

モーモールルギャバン

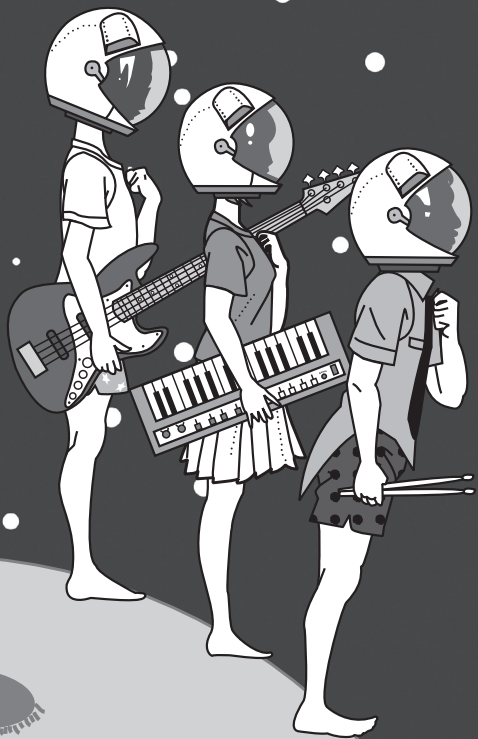
毎週のヒットチャートを飾るCDに今ひとつ魅力を感じられない人はいないだろうか。そんな人は「J-POPテロリスト」を自称するモーモールルギャバンの音楽を聴いてほしい。今回紹介するのは、彼らのデビューミニアルバム、『クロなら結構です』だ。

モーモールルギャバンは、ゲイリー(ドラム&ボーカル)、マルガリータ(ベース&コーラス)、ユキ(キーボード&ボーカル&銅鑼)によるスリーピースバンド。この変則的な編成が彼らならではの世界を生み出している。リード曲の『ユキちゃんの遺伝子』はそれを代表するものだろう。エレキギターのように歪んだキーボード、うねるベースラインに小気味いいドラムが合わさって不思議な楽しさに包まれる。しかし、ポップな曲ばかりではなく、『悲しみは地下鉄で』は、打って変わって優しいピアノの音色が印象的なバラードとなっている。「どれも同じような曲に聞こえる」とは決して言わせ

ない、バリエーションに富んだ曲作りは彼らのユニークな編成ならではのものだろう。

彼ら独自の世界をさらに加速させているのが、フロントマンのゲイリー手がける偏愛に満ちた歌詞である。たとえば「好きな娘が結婚して子どもができたけど、今度はその娘の子どもに恋をしてしまった」という内容の歌詞。字面だけ見ると敬遠したくなってしまいかもしれないが、彼らはそれを驚くほど自然に私たちに届けてくれる。笑いを交えた気取らない言葉で綴られた歌詞は、やや荒削りなゲイリーの歌声にのると、不思議なほど親しみ深く感じられる。よくあるラブソングとはひと味もふた味も違う、彼らの歌う人間くさい愛の形はきっと脳裏に強く焼き付くはずだ。

さまざまな面で常識にとらわれないこのアルバム。流行りの曲に飽きてしまった人にもきっと刺激を与えてくれるに違いない。(かくたす)



『クロなら結構です』

モーモールルギャバン

1. J-POP
2. ユキちゃんの遺伝子
3. 裸族
4. mobile call
5. 悲しみは地下鉄で
6. パンティー泥棒の唄



定価：1,600円
品番：VICL-63625
レーベル：Getting Better

(農・1 フマル)
(多くの言葉はいらないのです；編)

はみだし
すてーじ

好きです。
⇒僕もです。